

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 45 号:2017 年 2 月－3 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2016年のウズベキスタンのGDPは前年比7.8%増の199兆3,250億スム

鉱工業生産は6.6%、建設業は12.5%、小売業は14.4%、サービス業は12.5%の伸びを示した。物価上昇率は5.7%であった。

投資総額は166億ドル（前年比9.6%増）で、そのうち外国投資・融資総額は37億ドル（同11.3%増）であった。

小規模企業活動がGDPに占める割合は56.9%（2015年は56.5%）に、鉱工業生産では45%（同40.6%）に、投資総額においては40.3%（同36.3%）に、建設業では70.7%（同68.4%）に、小売業では89.6%（同87.1%）に、就業者数に占める割合は78.1%（同77.9%）に拡大した。

中央銀行のデータによると、2017年初時点の国内銀行の自己資本は前年比20%増の総額9兆4,000億スム

同年初時点の商業銀行の資産は前年比23.3%増の総額80兆4,000億スムであった。2016年に各行が供与した融資総額は前年比30%増の53兆4,000億スム超であった。2017年初時点の預金総額は前年比20%増の44兆6,000億スム超に達した。

2016年のウズベキスタンの現地化製品生産高は前年比50%増の6兆1,460億スム

経済省によると、輸入代替効果は推計約21億ドルに達した。2010～2016年には約2,000件の現地化プロジェクトが実施され、それらの輸入代替効果は累積75億ドルを上回った。2017～2019年の現地化プログラムでは1,146件のプロジェクトが実施される予定で、生産高は総額34億ドルに達する見込みである。

2017年2月、現地化プログラムの対象となるプロジェクトの要件が変更され、プログラムの対象となった時点から1年以内に36%以上、2年以内に45%以上、3年以内に50%以上の現地調達率を達成しなければならなくなった。また、2年以内に生産量の20%以上、3年以内に約3分の1を輸出しなければならなくなった。その結果、政府は、企業12社につき新たな要件を満たすまでは現地化プログラムから除外すること

を決定した。現地化プログラムに参加する各企業は、利潤税と資産税の免除ならびに機器、スペアパーツおよび製品部品の輸入関税の3年間の免除といった優遇措置を受けている。

貿易

外貨収入の強制売却制度、50%から25%に引き下げ

2017年2月1日、政府は、企業を対象とする外貨収入強制売却制度を改正した。その結果、売却が義務付けられるのは商品とサービスの輸出による外貨収入の25%となったが、例外である16種類の商品とサービスについては従来通り輸出収入の50%を売却しなければならない。この例外リストに含まれるのは、小麦、硫黄、天然ガスおよびその他の石油ガス製品、ウラン、ポリエチレン、ポリプロピレン、鉄、銅、亜鉛、水素、不活性ガスおよびその他の非金属、卑金属、サーメットである。また、航空・鉄道輸送サービス、通信サービス、銀行サービスも含まれる。なお、完成品を輸出する繊維部門の企業および自社の製品およびサービスを輸出する小規模企業については、以前から外貨収入の売却義務が免除されている。

ウズベキスタンの果実・野菜製品の輸出が引き続き増加

2017年1月の生鮮および加工済みの果実・野菜製品の輸出量は前年同月比189%増の3万1,000 t 超であった。輸出総額は4,259万ドル(2016年1月は2,078万ドル)に達した。輸出された製品は、ブドウ、ザクロ、レモン、柿、リンゴ、ハーブ類、キャベツ、ニンジン、キュウリ、トマト、ビーツ、大根、カブ、ピーナッツなどである。

二国間関係

2016年のウズベキスタンとロシアの貿易高は42億ドル

ロシアは、依然としてウズベキスタンにとって最大の貿易相手国である。現在、ウズベキスタンにはロシア資本が参加する企業が961社あり、そのうち810社は合弁企業、151社は100%ロシア資本の企業である。また、ロシア企業64社の駐在員事務所が登録されている。ロシアにおいては、ウズベキスタン資本が参加する企業が569社設立されている。

2016年のウズベキスタンとカザフスタンの貿易高は20億ドル超

現在、ウズベキスタンにはカザフスタン資本が参加する企業が229社あり、そのうち192社は合弁企業、37社は100%カザフスタン資本の企業である。また、カザフスタン企業3社の駐在員事務所が対外経済関係・投資・貿易省に登録されている。

イスラマバードにウズベキスタン製品の常設展示場がオープン

この展示場には、建築資材、ケーブル・ワイヤー製品、家電、衛生設備機器のサンプルなど、170種類以上のウズベキスタン製品が展示されている。プレゼンテーションにおいては、建築資材の輸出に関する合意文書の署名式が行われた。

ウズベキスタンとトルコが二国間協力の拡大につき合意

上記は、アジモフ副首相率いるウズベキスタン代表団のトルコ訪問中に発表された。両国政府は、総額約10億ドルの一連のプロジェクトにつき合意を交わした。協力優先分野は、ウズベキスタンの経済特区への投資、観光インフラの整備、交通分野の共同プロジェクトである。計画されている共同プロジェクトの一つは、自由経済区「アングレン」における産業用鉄骨工場の建設である。トルコ側の統計によると、両国間の貿易高は約12億ドルである。

ウズベキスタンとトルクメニスタンが一連の協力合意文書を締結

ミルジヨエフ大統領率いるウズベキスタン代表団がトルクメニスタンを訪問し、戦略的協力協定、2018～2020年の経済協力協定、鉄道輸送分野における協力拡大に関する覚書、2017～2019年の文化・人道分野における政府間協力プログラム、2017～2018年の両国外務省間協力プログラムが締結された。

また、貿易・経済分野および文化・人道分野における両国国境地域間協力協定や、鉄道輸送、農業、水利、化学産業および機械製造業の各分野における契約も締結された。たとえば、農機メーカー「ウズアグロテフサノアトホールディング」はアシガバードに技術センターを開設した。大規模な販売・サービスセンターおよびトルクメニスタン各地における支店の開設、そして将来的には農機の組立を行うことも計画されている。

両国は、トルクメニスタン～ウズベキスタン～タジキスタン～アフガニスタン～パキスタン間ルートによる南アジア向けの電力供給、トルクメニスタン～ウズベキスタン～カザフスタン～中国間ガスパイプライン・プロジェクトの実施、ウズベキスタン～トルクメニスタン～カスピ海～南コーカサス経由でグルジア、トルコ、ルーマニアなどの黒海沿岸諸港に至る国際輸送・トランジット網の整備など、今後の協力に関する一連の問題についても協議した。また、2011年に締結された、中央アジアから中近東諸国に至る国際輸送・トランジット回廊の創設に関する協定にかかる協力の活発化についても合意が交わされた。

欧州復興開発銀行 (EBRD) のスマ・チャクラバルティ総裁率いる代表団がタシケントを訪問し、ウズベキスタンとの協力拡大につき合意

協力優先分野として、中小企業支援およびビジネス環境の改善が挙げられた。ウズベキスタンは1992年にEBRDに加盟した。同行はウズベキスタンにおいて総額約9億ユーロ、約55件のプロジェクトを実施してきた。最近まで、ウズベキスタンにおける同行の事業は、5件のプロジェクトにかかる総額800万ユーロの既存の投資ポートフォリオの管理に集中していた。

アジア開発銀行(ADB)がウズベキスタンのプロジェクト4件に5億7,300万ドルを供与

上記の合意は、ADBの中尾武彦総裁とウズベキスタンのミルジヨエフ大統領の協議において交わされたものである。具体的には、小規模企業活動に対する融資（1億ドル）、上水道システムの整備（1億2,100万ドル）、果実・野菜生産チェーンの整備（1億5,400万ドル）、自動車道路の建設と改修（1億9,800万ドル）の4件である。中尾総裁は、ADBは2017～2019年に、エネルギー、運輸、住宅公共サービスの各分野におけるインフラ整備の継続、農村部における住宅建設支援の強化、中小企業と農業部門の資金へのアクセス向上のため、ウズベキスタンに26億ドルのソブリン融資を供与する計画であると述べた。また、双方は、有望な協力分野として、再生可能エネルギー、保健、職業教育、株式会社への投資、民間部門への融資の拡大を挙げた。

投資・金融セクター

ウズベキスタンは今後5年間で鉱物資源加工分野のプロジェクト649件に400億ドルを投資する予定

上記の数字は、大統領令「ウズベキスタンのさらなる発展のための2017～2021年の行動戦略について」において発表されたものである。この計画により、鉱工業生産が50%増加し、GDPに占める割合が（33.6%から）36%に拡大する見込みである。

ウズベキスタンは2022年までに国際金融機関から77億ドル以上の融資を誘致する計画

上記の融資は、「ウズベキスタンのさらなる発展のための2017～2021年の行動戦略」の枠組みにより誘致される予定である。具体的には、世界銀行との間で総額30億ドルのプロジェクト27件、ADBとの間で総額37億ドルのプロジェクト25件、イスラム開発銀行との間で総額10億ドル相当のプロジェクトが検討されている。政府は、中国輸出入銀行、韓国輸出入銀行、日本国際協力機構（JICA）、韓国国際協力団（KOICA）、ドイツ国際協力公社（GIZ）、フランス開発庁およびその他の機関からもグラントや融資を誘致する意向である。

農業部門の生産者や輸出業者を支援するため、新銀行ウズアグロエクスポートバンクを設立

同行の設立時定款資本は1,000万ユーロ相当で、出資者はウズベキスタン復興開発基金（750万ユーロ、75%）、ウズベクインヴェスト（100万ユーロ、10%）、ウズベクオジコフカトホールディング、ウズアグロスグルタ、カフォラトSK（各50万ユーロ、5%）である。同行の株主となることができるのは、ウズベキスタン国民ならびに国際金融機関を含む外国人である。同行は戦略的外国投資家を誘致し、その出資比率を2020年までに定款資本の15%以上にする予定である。同行および各支店は、全ての税金および国家目的別基金に納める強制拠出金を5年間免除され、その分の資金は同行の資金的基盤と物資・技術的基盤の強化に充てられる。

定款資本1,000億スムの小規模企業活動発展保証基金を設立

同基金は株式会社として設立され、小規模企業に対して最新機器の購入と競争力の高い製品の生産のための資金調達を支援することを目的としている。同基金の株主となったのは22の組織、すなわち国家民営化・非独占化・競争発展委員会（50%）、ウズベキスタン銀行協会、商工会議所、銀行16行および保険会社3社である。

7つの自由経済区を銀行6行が分担

政府の決定に基づき、国立銀行は自由経済区「ナヴォイ」と「ウルグト」に、ウズプロムストロイバンクは「アングレン」と「ギジドゥヴァン」に、イポテカバンクは「ジザク」に、国民銀行は「コーカンド」に、アグロバンクは「ハザラスプ」に支店を設置する。「ギジドゥヴァン」は、ウズプロムストロイバンクとマイクロクレジットバンクの2行の支店が設置される唯一の自由経済区である。各行は、自己資金および外国からの融資により、企業に対して機器、原料、資材、部品を購入するための資金を融資するよう奨励されている。現在は、「ナヴォイ」（2008年設置）、「アングレン」（2012年）ならびに「ジザク」（2013年）の3つの自由経済区があり、2017年には「ウルグト」、「ギジドゥヴァン」、「コーカンド」、「ハザラスプ」の4つの自由経済区が設置される予定である。自由経済区の主な課題と目的は、最新の製造施設を建設するため、国内外の投資家から直接投資を誘致することとされている。

エネルギー・セクター

ウズベクエネルギーが発電所の建設と近代化に関する総額5億9,550万ドルの契約2件を締結

上記の具体的な内容は、韓国のHyundai EngineeringおよびHyundai Engineering & Constructionのコンソーシアムとのタヒアタシ火力発電所近代化契約（ADBの融資3億ドルを含め、契約額は4億4,850万ドル）ならびに中国のZhuhai Singyes Green Building Technologyとのサマルカンド州における太陽光発電所建設契約（ADBの融資1億ドルを

含め、契約額は1億4,700万ドル)である。両プロジェクトにかかる入札は2016年12月に完了した。ウズベクエネルギーは、2022年までに総額89億ドルのプロジェクト33件の実施を計画している。

2016年、ウズベキスタンはカザフスタンから60万tの石炭を輸入

石炭は発電会社と国民のニーズを満たすために輸入されたが、その大部分はフェルガナ盆地に供給された。現在、ウズベキスタン国内では年間約390万tの石炭が生産されており、そのうち約85%が電力会社に供給されている。今後5年間で、坑内掘りによる生産量を1,167万tに、露天掘りによる生産量を417万tに拡大する計画である。石炭産業の発展と近代化のため、6件の投資プロジェクトの枠組みで、各社の自己資金(8,750万ドル)、銀行の融資(1億5,560万ドル)、ウズベキスタン復興開発基金(6,870万ドル)、上海協力機構の優遇融資(3億7,870万ドル)により、2021年までに総額約6億9,000万ドルが拠出される予定である。たとえば、年間約400万tの石炭生産が計画されているアングレン炭坑の建設費として、1億6,500万～1億7,500万ドル以上が拠出される予定である。入札は2017年第3～4四半期に実施され、建設は2017年末～2018年初めに開始される予定である。

ウズベキスタンはフェルガナ製油所向けにカザフスタンからの石油輸入を増やす計画

3月22～23日にミルジヨエフ大統領がカザフスタンを訪問し、上記に関する協議が行われる予定である。カザフスタン側の情報によると、現在、フェルガナ製油所はカザフスタンから年間17万～20万tの石油を輸入している。ウズベキスタン側は、価格に関して合意できれば輸入量を年間200万tに増やす可能性がある。

自動車・機械工業セクター

2017年1月のロシア国内コンパクトカー販売台数でRavon R2(Spark)がトップに

ロシアの調査会社の評価によると、2017年1月、ロシアにおけるコンパクトカーの需要は120%近く拡大した。しかし、このような需要の急増にもかかわらず、自動車市場全体におけるコンパクトカーの割合は0.42%と非常に小さい。1月のコンパクトカー販売台数は308台で、そのうち159台がRavon R2であった。2016年、Ravon R2のロシア市場への出荷は何度も延期されたものの、ロシアにおける販売台数は1,100台を上回った。

2017年3月、GMウズベキスタンはカザフスタンにおける自動車組立を開始予定

カザフスタン側のパートナーは、サルリアルカアフトプロム(コスタナイ市)である。2016年末、GMウズベキスタンの自動車のSKDに関する協定が締結された。当初は

年間7,000台のRavon Nexia R3のSKDが行われ、その後はRavon R2の組立も開始される可能性がある。カザフスタン側の情報によると、サムアフト（サマルカンド市）が製造しているいすゞのバスやトラックおよびMAN Avto Uzbekistanの大型自動車のコスタナイにおける組立、そして農機製造分野における協力の可能性も検討されている。

輸送セクター

ウズベキスタンとカザフスタンがバス、航空、鉄道の各路線を拡大

二国間協力に関する政府間共同委員会の第16回会合において、上記に関する事前合意が交わされた。ウズベキスタンは、とくに、欧州および地中海地域への自国製品輸出のため、アクタウ港の輸送ポテンシャルに関心を示している。このプロジェクトを実現するためには、カザフスタン側は、バイネウ～アジギト間自動車道路（欧州自動車道路E40の一区間）の改修を完了しなければならない。

「カザフスタン・テミル・ジョリ」と「ウズベキスタン・テミル・ヨラリ」の幹部は、カザフスタンの穀物や小麦などの貨物およびウズベキスタンの果実・野菜製品やその他の農産品の輸送料金の相互割引に関する合意を交わした。タシケント～アルマトイ間高速旅客列車の運行も開始される予定である。

カザフスタン側は、両国間の交通の活性化、具体的にはタシケント～アスタナ間航空便を毎日運航することを提案した。また、カザフスタンのマクタアル地区を經由してタシケントとサマルカンドを結ぶ自動車道路M39のカザフスタン区間（2006年に閉鎖されていた）が開通する見込みである。

新路線による中国～ウズベキスタン間鉄道貨物輸送が開始

41両編成の最初の貨物列車は、1,000 t の綿糸を積み、タシケントを出発して西安（陝西省）に到着した。新路線の利用により貨物の輸送時間が1カ月から15～18日に短縮される。この路線により、ウズベキスタンから中国に毎月約3,000 t の綿糸が発送される予定である。西安から中央アジア向けの鉄道貨物輸送は2013年に開始され、その後、この路線は欧州まで延長された。

ウズベキスタンがタジキスタンに鉄道開通を提案

ウズベキスタン側は、旅客列車だけでなく、アムザング～ガラバ区間における貨物列車の運行開始も提案している。同区間の運行は2011年に停止された。現在、タジキスタン側がこの提案について検討している。

その他のセクター

タシケント空港新ターミナル建設プロジェクトの詳細が明らかに

2016年、韓国国際協力団（KOICA）の資金協力による上記プロジェクトのフィージビリティ・スタディ（F/S）が完了した。新たな「タシケント4」ターミナルの面積は約8万7,000㎡である。同ターミナルには、飛行機36機分の駐機場と自動車1,700台分の駐車場が設置される。同ターミナルは毎時1,500人および年間570万人の旅客が利用可能である。建設期間は3年の予定である。事業費は総額4億3,000万ドル（当初は3億3,600万ドルと伝えられていた）で、そのうち2億ドルを韓国輸出入銀行が供与する見込みである。